令和元年度 8020 公募研究報告書（採択番号 19-4-10）

研究課題：特別支援学校の給食における医療職および教育職の円滑な医教連携実現にむけた調査

研究者名：遠藤眞美，猪俣英理，地主知世，野本たかと
所　　属：日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座

食事の機能は学習によって習得するために障害児では学習不足（未学習）や誤った学習（誤学習）によって摂食嚥下障害を伴う場合が多い。児童生徒が給食を通しておいしく安全に『食べる力』を学習するには教育職と医療職の医教連携による支援体制が求められる。そのためには，情報の共通理解や相互コミュニケーションが重要であり，そのためのツールとして WEB ページを作成することにした。互いのニーズに合ったページ内容となるように特別支援教育の学校給食に関わる教職員や専門職の知識や意識，求める情報やその発信方法の希望などを調査した。

調査①では，特別支援学校 342 校の教職員を対象に郵送法で摂食嚥下機能に関する知識および医教連携に関する意識調査を行った。調査②は，摂食嚥下障害の理解を促す基準動画応用効果について，特別支援学校 4 校および学校歯科保健に関係する専門職（以下，研修会方式群）に講義形式で，1 校には郵送法（以下，資料提供式群）で調査した。

発表に同意した調査①の 4692 人，調査②の 370 人について解析した。約 6 割が給食中に命の危険を感じた経験があり，9 割以上が医教連携を必要と考えていた。摂食嚥下機能の知識は全項目で 8 割以上と高かった一方で，調査①の摂食嚥下障害に関する知識，調査②の基準動画による摂食嚥下障害の各器官の動きを適切に判断できていない項目が認められた。基準動画を用いて口腔，舌，顎の動きを確認しながら回答を進めたところ，研修会方式群の約 8 割が本調査は給食指導に役立つと回答したことから摂食機能や摂食嚥下障害の理解に動画応用が有効と示唆された。一方，資料提供式群において，本調査が役立つとの回答は約 6 割と少なかった。動画は摂食機能や状況を把握しやすいものの，詳細な理解には対面式の解説が必要と推察された。約 9 割がデジタルツールや WEB ページの体験を希望した。以上から，動画を用いた e ラーニング形式の情報提供などを行える WEB ページの作成を行い，関連の専門職に利用を促しながら医療職による研修会を併用することでより効果的な情報提供が可能となり，医教連携の一歩になると考えられた。学校の所在地によっては必ずしも専門的な医療職が存在するとは限らず，学校医・学校歯科医に WEB ページを活用してもらうことや，WEB ページで質問ができる環境整備の検討が必要と思われた。

本結果から，【いきょうれんけい　食事支援における円滑な医療機関と教育機関の連携（医教連携）に向けて：http://spc.ce.cst.nihon-u.ac.jp/】という WEB ページを作成し，公開を開始した。今後は，資料のダウンロードや動画再生の不安定さ，学校でのインターネット応用の困難性，個人情報の管理などの不安に対して，個人が特定される内容については登録者を限定するなど個人情報管理への配慮，インターネットが不安定なところでも応用可能になるように動画のダウンロードを可能にするプログラムへの移行など様々な工夫をしていきたい。